

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

1 経済分野

(1) ものづくりをはじめとした産業振興(高付加価値、生産性向上、海外展開など)

(技術革新、ICT化、グローバル化)

項目名(キーフレーズ)	現状・課題、富山県の特長	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
1 庄川・神通川流域をTOYAMAシリコンバレーに	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり産業のグローバル化により競争が厳しくなり、IoTやプロダクトデザイン等での高付加価値なものづくりへの転換が必須になる 富山の安定した安価な電力供給と災害の少なさ、自然環境の豊かさは、IT系ベンチャーやクリエイターにとって魅力的 	<ul style="list-style-type: none"> まずはIT環境＝富山全域でWi-fi環境を整備し、どんな山奥でも「世界とつながる」状況をつくる つぎに資本＝地銀や信用金庫にVCのようなスタートアップ向けに資本提供できる仕組みを県の支援も含めてつくる 最後に人＝世界的にも目玉となるVCもしくは起業家を誘致し世界的に発信 	<ul style="list-style-type: none"> 富山の庄川・神通川流域から、新たなものづくり産業とコラボするITベンチャーが続々と生まれる「TOYAMAシリコンバレー」を目指す
2 中小企業のM&Aに関するフィーの一部を助成	<ul style="list-style-type: none"> 中期的に自社内で新たな収益基盤を構築することは人口減少する国内経済の中ではリスクが高く、企業の希求はM&Aによる事業拡大/シナジーの追求による付加価値の増大にある M&Aには、専門機関への多額のフィーが発生するため、売り手/買い手とも規模が小さい場合、コストからこの足を踏む可能性があり、特色ある中小企業が埋没していく懸念あり 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業のM&Aに関するフィーの一部を助成する制度など、企業の成長を後押しする仕組みづくり 	
3 企業内ベンチャーの設立や、その後のMBOを後押し	<ul style="list-style-type: none"> 富山県民の保守的指向から、野心を背景にしたベンチャーはリスクの観点から育ち難いものの、足腰のしっかりとした企業の社内ベンチャーであれば、リスクも低く、成長が見込める場合のMBO等による独立に発展しやすくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 企業内ベンチャーの設立や、その後のMBOを後押しするような仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県企業の優れた技術力をブラッシュアップできるほか、起業による雇用面の充実、更なる技術の発展に寄与できる
4 IoT導入・活用(最先端ものづくり県)	<ul style="list-style-type: none"> IoT、BD、AIを活用したインダストリー4.0と呼ばれる生産性革命に、ものづくり中小企業が乗り遅れるおそれ ものづくり産業が集積 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にIoT導入・活用に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 生産性が向上し、最先端ものづくり県として競争力が強化 省力化にも資することから人手不足にも対応
5 最先端ロボット技術の研究 ロボット化社会を想定した取組み	<ul style="list-style-type: none"> 30年後はロボットの時代が来る可能性 社会がロボット化すれば、雇用が減り、便利な世の中となって婚姻率も下がり、子どもが更に減る可能性もある 	<ul style="list-style-type: none"> 世界に先駆け、世界に注目されるような最先端ロボット技術の研究を富山で行う 様々なコミュニティ施設を作り、人と人との関わりを増やし、仕事ばかりではなく様々なスポーツや音楽の大会をつくり、恋愛・結婚も勧める 	<ul style="list-style-type: none"> ロボット車が増えれば、(高齢者の交通手段の問題が解消され)安全に事故を起こさず移動できる (社会がロボット化されても人のつながりが濃い)健康で元気な長寿県を目指す。
6 県内企業のデザイン力を高める(高付加価値化、デザインのメッカ)	<ul style="list-style-type: none"> 本県はものづくり県であり、優れた技術を有する企業も数多くあるが、「売れる」商品づくりのためにはデザインが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業のデザイン力を高めるための支援の充実などにより、製品・商品の高付加価値化を図る(県総合デザインセンターの機能・体制の大幅拡充や新美術館との統合など) 	<ul style="list-style-type: none"> 新近代美術館で「デザイン」を運営の柱とするのを契機にアートのみならず、工業・商業デザインの先進地を目指し、富山を国内・世界に誇れるデザインのメッカとする
7 県外からのOEM生産受注(「日本の工場」)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の進展で製造業においては国全体として需要が減少 機械・金属産業が集積していることに加え、銅器や木工など職人の優れた技も数多く残っている 	<ul style="list-style-type: none"> OEMに特化した見本市を首都圏のみならず各地方で開催するなど戦略的にPRすることにより、県外からのOEM生産を積極的に受注 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の工場」を目指す
8 海外の医薬品製造業の誘致(「世界の薬工場」)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の進展で製造業においては国全体として需要が減少 医薬品製造業も例外ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品製造業の集積や海外交流の成果を活かすとともに思い切った企業立地助成制度の創設などにより、海外の医薬品製造業を本県に積極的に誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 「世界の薬工場」を目指す
9 「薬学なら富山」という高レベルな大学・病院づくり	<ul style="list-style-type: none"> 世界と勝負するため、何かに特化した企業・大学・文化を産み出し、国内外からの注目を集める 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、薬の知名度を活かし、薬学のトップクラスの有能者を世界から集め、薬の研究に力を入れ、「薬学なら富山」という高レベルな大学・病院づくりを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> (世界でもトップレベルの特徴的な分野が育っている)
10 世界を代表する「ヘルスケア」集積地	<ul style="list-style-type: none"> 温暖化の進行や生物多様性の危機などにより、亜熱帯性疾病などの流行域拡大などが危惧されている 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば富山県のキラーコンテンツともいえるべき「ヘルスケア」をテーマとした社会的課題に挑戦できるような医薬工連携のオープンイノベーションの支援体制を構築 	<ul style="list-style-type: none"> 世界を代表する「ヘルスケア」集積地を目指す
11 医薬品関連機関1本に絞り込んだ政府関係機関移転	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、特に若者の流出が課題 どんなに住みよい環境でも雇用の場がないと人は集まらない 古くから薬づくりがさかんで実績も知名度もある 	<ul style="list-style-type: none"> 政府関係機関の地方移転を医薬品関連機関1本に絞り込んで本気度をPR(実現により民間企業やその関連企業も呼び込める) 	<ul style="list-style-type: none"> 関連産業の雇用の創出につながり、より若者が定住し、人口増加、経済活性化につながる
12 中小企業への支援情報の適時適切な提供	<ul style="list-style-type: none"> 本県の製造業のほとんどを占める中小企業への支援施策は充実。一方でこれを活用しているのは一部に留まる 事業者が日々の業務に追われ、情報の入手が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の事情に詳しい商工会議所や商工会の機能強化を図り、全ての中小企業に支援情報が適時適切に提供される仕組みを構築 	<ul style="list-style-type: none"> 県内中小企業が有効に各種支援施策を活用し、20年、30年後においても持続的に活躍している
13 中小企業の海外販路拡大支援機関の設立	<ul style="list-style-type: none"> 製造業は高い技術力を持つが、海外への販路拡大には語学の壁がある。特に中小企業では語学だけではなく、貿易を専門とするヒトの配置が困難な場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業を対象に語学や貿易業務の部分をサポートする機関を設立し、外国人等を雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 20年後、30年後、県内企業の取引拡大と外国人等の富山県への定着が見込まれる

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題、富山県の特性	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
14 グローバル人材と企業のマッチング	・製造業が多い「ものづくり」県にとってTPPは輸出のチャンス(通訳の活用等により英語を使って直接やり取りできればよいと考える企業が多い)	・英語を勉強した人と企業をマッチングさせるような機会をもうける	・企業自ら輸出のパイプを作ることができ、事業拡大の基礎となる ・グローバルな仕事があることを魅力に思い定住する人が増える
15 県土の有効活用と特色ある企業誘致	・富山県では「本社機能移転等に対する法人税等の軽減措置」等により、本社の県内移転が進んでいる	・今後、県所有施設の跡地(高校や警察署など)にPPP・PFIなどの手法を活用、場合によっては無償で貸し出すことを武器とし、企業誘致を行う(その地域に相応しい、若者や女性が就労希望する企業を調査・選定し誘致を行えば、地域の魅力アップや雇用創出の実現、ひいてはUターン就職の受け皿にもなる)	・古民家を活用する「富山型デイ」ならぬ「富山型企業誘致モデル」になると期待できる
16 安全や癒し、心の豊かさを求める人や企業の誘致	・自然災害や火災等が少ない安全なまち ・世界に誇れる自然や伝統文化	・世界中から安全や癒し、心の豊かさを求める人や企業の誘致に取り組む(防災・減災技術の研究開発の推進、癒しスポットの掘り起こし・ブラッシュアップ、伝統文化を身近に感じられる環境の整備などにより、安全や癒し等を強化し、発信)	・国内外からの転入者による人口増加を目指す
17 子育て支援の充実した企業の誘致	・富山県でのあらゆる問題は人口が少ないことから生ずる ・富山県は企業誘致に積極的な県であり、今後も企業誘致を進めて欲しい(企業の誘致は人口増加につながる)	・企業誘致を進める(誘致する企業の条件として、結婚、出産、育児を女性だけでなく男性も参画しやすい環境である企業が望ましい) ・子育て支援制度を十分活用している企業がさらに発展できるよう県が支援	
18 農業・水産業全般における生産性の向上		・農業・水産業全般における生産性の向上(米・野菜・肉・水、魚は養殖技術の向上)	・富山県民が完全地産地消を実現できる社会を目指す
19 兼業農家の再評価	・兼業農家が多いのがとやま型農業経営 ・今後、農業の大規模化を行っても働き手が少ない状況では、限りがあり、生産性・経済性は悪いが、個々の農家がいるから水田が保たれている	(時代や国の政策には合わないかもしれないが) ・極力、兼業を維持してもらおう取組み(農家戸数の多い県と少ない県の一人当たりの米消費量を調査、兼業農家の多い方が消費量や農業への理解力が高いのでは)	・いつの時代も農家戸数の多い(水田が保たれた、米が消費され農業への理解が高い)県を目指す
20 持ち家率の高さを活用した省エネ住宅の適合義務化の推進	・製造業においては省エネの取組みが進んでいるが、家庭のエネルギー消費の効率化が進んでいない	・富山県の持ち家率の高さを活用して、住宅メーカーとタイアップして省エネ住宅の適合義務化を進めることで新たな需要を呼び込む ・併せて省エネ住宅や小水力発電の研究開発を進め、本県の省エネサブシステムをパッケージ化して海外に売り込む	・県内エネルギー自給率が世界から注目されることで、関連企業の集積、地元企業の活性化を目指す
21 空き家を活用した弾力的な住宅市場の形成	・全国有数の持ち家率の高さが本県の豊かさの象徴 ・持ち家に固執することにより住宅市場に硬直性 ・人口交流を活性化するために流動的な住宅市場の形成が必要 ・海から山にかけての自然環境が富んでいる	・今後増加が見込まれる空き家を活用し、ライフステージ・嗜好に合わせて生活環境を変えることができる、弾力的で魅力的な住環境(市場)の提供(形成)	・限られた人口であっても、交流が活発となり豊かな文化活動が醸成される

(2) 外国人雇用等

(労働力確保、グローバル化)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題、富山県の特性	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
22 富山ものづくり経済特区(労働力確保と企業誘致)	・ものづくりが経済の主力の富山県では、高齢化・人口減少の社会トレンドの中、高レベルの労働力確保が課題 ・一方、災害に強い・勤勉な県民性・交通インフラ等の優位性あり	・他県・海外から労働力を確保、ひいては企業誘致を促進する目的で県全体を「富山ものづくり経済特区」に設定	(富山県の強みを活かし、引き続きものづくり産業が富山県経済を牽引)
23 外国人雇用特区	・富山県は産業立県だが、中小企業に若い人が入って来ない ・少子高齢化の進展によりさらなる労働力不足が見込まれる ・一方で、グローバル化が進んでいるが、ヒトは動いていない	・富山県に外国人雇用特区を設け、外国人を正社員として雇用し、かつ住まいとして空き家の活用や日本語・文化を学べる仕組み(企業負担あり)を創設(外国人の雇用を例えば県と海外友好提携先の州政府でマッチング)	・外国から若い人が移住し、日本人とフラットに働き暮らしている日本一国際化された街を目指す
24 海外からの労働者・留学生受入	・日本に住む外国人の数は年々増加傾向にあるが、日本人との共存には文化面・経済面においてさまざまな課題がある	・積極的に海外からの労働者や留学生を受け入れ、県内企業や大学でインターンや就労を行う	・受け入れ企業・大学のソフト面でのグローバル化が進む(出身国への進出のきっかけ) ・ものづくりや製薬業など富山県の豊富な産業がさらにグローバルに展開 ・県内産業及び教育の強化につながる

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キープフレーズは事務局で抜粋)

(3) 高齢者の活躍、高齢化対策

(労働力確保、健康寿命延伸)

項目名(キープフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
25 富山県独自の「労働寿命」を設定		<ul style="list-style-type: none"> 現在の生産年齢人口(15歳から65歳)を18歳から80歳までに再定義し、富山県独自の「労働寿命」を設定し、官民一体となって高齢者の就労の場を創出 高齢者だから雇ってあげるのではなく、ビジネスにもメリットがあるとの発想で富山モデルのバランスのとれた労働市場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 再定義した生産年齢人口の就業率が全国屈指となり、富山県が「長寿」と「経済」を繋ぎ、回している県として国内外にアピールできる
26 生産年齢の再定義(18歳~80歳)	<ul style="list-style-type: none"> 製造業が「労働集約型」から「知識集約型」へシフト(肉体年齢にとらわれなくなっている)している中、65歳定年を前提とした諸制度が企業競争力を阻害 	<ul style="list-style-type: none"> 65歳定年を改め、生産年齢を18歳~80歳に再定義し、それに応じて諸制度を改正 	<ul style="list-style-type: none"> 「知恵・知識・経験」という年齢を重ねるほどに磨かれる高齢者の貴重な資源を活かし、知的労働者としての活躍の場を整える
27 高齢者の定義を見直し、生産者へ	<ul style="list-style-type: none"> 全国に先行して高齢化が進展し、生産年齢人口は減少の一途へ 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化先進地の立場から、いち早く高齢者の定義を見直し、守るべき対象から一線の生産者として捉えなおす 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者による高齢者のための経済活動を醸成することにより、限られた人口であっても、生産性と消費力の維持を図ることができる
28 シニアが自らの強みを活かし、自ら稼ぐ自己完結型の環境	<ul style="list-style-type: none"> 生産労働人口減少及びアクティブシニアの増加、富山への回帰・移住が課題 長期的な展望で社会増を進めるには既存の強みを活かす・弱みを克服し機会を捉える仕組みを整備し、県内でお金が循環する仕組みが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業OBの就労の充実、シニア世代の起業支援体制の強化(県内外のシニアが定年後自らの強みを活かし、自ら稼ぐ自己完結型の環境を整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 富山の強みや伝統、技術ノウハウの継承と労働生産性の維持向上を図る
29 シニア世代が現役世代の育児や介護を後押しするマッチング	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会は避けられず、労働人口のフル活躍が必要 一線を退いたシニア世代は勤勉、働き者で意欲もあるが、県民性として自己表現が苦手 	<ul style="list-style-type: none"> シニア世代が現役世代の育児や介護を後押しする地域単位でのマッチングを積極的に行い、現役世代が育児や介護と仕事を両立できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての世代が生きがいをもって安心して暮らせる地域社会の実現を目指す
30 生涯現役・健康寿命No.1 「いきがいinとやま構想」	<ul style="list-style-type: none"> 今後は生産人口の減少に加え、介護離職による労働力減の懸念が強い。 医療費の3分の2が高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> 食文化や自然環境・薬産業を活かした生涯現役いきがい活動(運動機能・認知機能の予防含む)を推進 介護保険適用されない健康な前期・後期高齢者が予防サービスや助け合い活動など行う場合は月1GBまで使い放題のスマートフォンを無償で提供(高齢者と若者のネットワーク基盤にもなる) 新たな予防サービスや健康アプリ等には事業開発を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 富山を生涯現役・健康寿命全国No.1とし、世界でも随一の「いきがいが見つかる地域」とする
31 健康を助長させる独自の長期的かつ大々の取組み(健康寿命日本一)	<ul style="list-style-type: none"> 富山県は「くすり」というイメージが定着しているが、健康寿命日本一という健康で住み易いというイメージがついていない 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県民の健康を助長させる独自の長期的かつ大々の取組み(例えば、大学病院、製薬メーカー、医療機器メーカー又は栄養食品メーカー等とタイアップして、企業、施設、学校、家庭等で運動、食事の見直しを支援し、ポイント制度や各種割引などでさらに利用・活用しやすいよう工夫する) 	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命日本一の県を目指す
32 義務教育中に親子で学ぶ健康プログラム(健康寿命日本一)	<ul style="list-style-type: none"> 介護人材不足に対し、介護を必要としない自立した高齢者の増加を目指す。そのためには心身共に健康であることが大切であるが、富山県は自然が豊かで環境は申し分ない 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に対する知識を家庭に身につけてもらうため、義務教育の中で親子で学べる健康プログラム(例:食育)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 介護を必要としない自立した高齢者の増加を目指す 健康寿命日本一の県となり介護人材不足が解消(それに伴い介護以外の分野への人材配置が可)
33 大きな家を活用した高齢者同士の同居へ優遇措置	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢化社会が到来し、一人暮らしとなる高齢者が激増 日常の買い物や緊急時など一人暮らしには心配が付き物 富山の家は大きな家が多いが、一人暮らしの方も多い 友達同士で同居するライフスタイルが全国で少しずつ出現 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな家などを活用し、高齢者の友人同士で同居する場合に優遇措置を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 自助努力で解決できる同居単位がつけられ、(高齢者ができるだけ自立して在宅で生活することで)地域における周りの住民の負担が減る
34 住宅のバリアフリー化の前倒し推進	<ul style="list-style-type: none"> 入院から自宅療養となる高齢者が今後増えるが、富山の家は壁が少なく段差が大きく浴室・脱衣室は寒く、生活できない バリアフリー化改修時に専門家の知識不足や連携不足によるトラブルあり 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化した家の税金を軽減し、今のうちから退院後生活しやすい環境づくりに取り組む 住宅改修案件が激増する前に医療・福祉・建築の専門家のネットワーク化や研修強化を実施し、トラブルのない住宅改修実施の体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> (・専門家の連携により個々の高齢者に応じたバリアフリー化がなされ、できるだけ在宅で生活できる環境が整備される)

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

(4) 女性の活躍、仕事と子育ての両立

(労働力確保、定住促進)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
35 積極的な女性採用・登用等 (働きたい女性の新天地)	・人口減少社会で労働力を確保するため、今以上に女性の活躍と県外から優れた人材を集める必要あり ・本県にはものづくり産業が集積し、特色のある企業も多い	・官民連携した県内外における本県ものづくり企業合同の女性限定就職セミナーの開催や女性活躍推進法の趣旨を踏まえた各企業での積極的な女性採用・登用等の取組み ・女性の雇用率や管理職率が高い企業、男性の家事・育児・介護参加を促す企業、女性の再就職を受け入れている企業への優遇措置・助成などの検討と、このような企業の学生向けPRに努める	・働きたい女性が富山にあれば活躍できるという「新天地」を目指してはどうか
36 女性が活躍できるとやま県	・労働力の担い手として女性が活躍できる社会の実現は不可欠		・実効性のあるインセンティブにより、企業は女性が輝いて働ける職場・仕組みづくりに動き、女性が活躍できる富山県を目指す
37 「子育てしやすい企業」認定制度と認定企業の活用	・1.9の希望出生率の達成は、現実を考えるとハードルが高い ・子育てしやすい環境整備には行政・企業・地域など社会総ぐるみの取組みが必要、本県の高い共働き率を考えると特に企業の役割が重要	・「子育てしやすい企業」認定制度を設け、その認定企業が県内大学・高校の女子学生向けに直接話しかける機会を設ける	・若い女性に魅力ある県内企業を認識してもらえると同時に、社会人手前の若いうちから、自分のライフプランを設計するきっかけとなる
38 企業の子育て支援の充実	・仕事と子育ての両立に不安を感じ、子をもつという選択ができない女性が多い ・企業がもっと子育て支援を充実させる必要がある	・定期的に企業の子育て支援の取組状況について調査し、結果をHPでの公表や合同企業説明会等就職活動の場で配布(企業選びの参考)。利用率の高い優秀な企業に助成金交付でインセンティブ	・結婚・出産は個人的な問題ではあるが、制度面で支援があることが出生率増加の一助になる
39 総合的にサービスを扱う地域の子育ての核となるセンター	・持続可能な子育て環境の整備には、地域の実情を考慮しつつ、限られた資源を活用した子育て機能の再編・集約化が必要	・未就学児から小学生までの、預かり・学童・病児保育・送迎等の総合サービスを扱う地域の子育ての核となるセンターを整備(①地域の保育所、学校と連携、②地域住民・高齢者の働く場、③官民協働、④校区に1箇所程度)	・女性がいきいきと働くことができ、安心して子育てできる富山県を目指す
40 生涯働き続けられる環境づくり 子どもを地域全体で育てる仕組み	・少子高齢化が進み将来的に慢性的な労働力不足が見込まれる ・一方、富山県は共働き世帯が多いことに加え、何事にもこつこつと真面目に取り組む県民性が魅力的	・男女問わず生涯働き続けられる環境を整えるためにも子どもを地域全体で育てる仕組みをつくる(特に元気なお年寄りの力を借り、学童などをさらに充実させ、地域・市町村・県全体で子供たちをWATCHする)	・共働き世帯が安心して働きながら子育てをしていくことができ、出生率上昇や労働力確保につながる

(5) 若者の定着、定住促進

(人口減少、労働力確保)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
41 高校生の県内企業への就業体験	・県外への人口流出が課題、県外就職した人に話を聞くと「富山に戻りたいという希望はあるが、就きたい職がない、どういふ職があるかを知らない」という声がある	・県内の企業や、県内での働き方を知る機会を設けるために高校1年生を対象とした職業体験を実施	・(進学等で県外へ行っても、県内で働くイメージを持つことにより) Uターン就職者が増加し若者が地元で定着
42 県内企業に就職するOB等の生の声を高校生に	・約6割の高校生が富山にずっと住みたい等の調査結果 ・県外大学等に進学しても富山に戻ってきてもらうことが肝要	・県外大学に進学後、県内に戻った担任の先生や県内企業に就職するOB等の生の声(富山で就職した理由、親の面倒を看るため等)を高校生に伝える機会を増やす ・東京の出生率の低さ(子育てを楽しめる環境にないことの裏返し)を訴求	・将来的には県外に進学・就職した高校生の大多数が帰ってくることを目指す
43 高校生に将来的な富山県の人口予想図を提示	・約6割の高校生が富山にずっと住みたい等の調査結果 ・県外大学等に進学しても富山に戻ってきてもらうことが肝要	・高校生に将来的な富山県の人口予想図を提示、人口減少⇒県の衰退の可能性を認識させた上で地元で頑張ることの意識づけ、併せて「東京は遊ぶところ、富山は住むところ」を訴求	・将来的には県外に進学・就職した高校生の大多数が帰ってくることを目指す
44 Uターン就職する若者の確保	・大学進学とともに県外に出て、そのまま若者が帰ってこないことが問題 ・何もしないでも人が集まるような魅力的な企業があればよいが、即席でつくることや強くすることは難しいので、まずは十分な情報発信をして、富山の企業を知ってもらい、富山県内の企業に就職してくれる若者を一人でも増やす必要がある	・タイミングとして一番有効なのは、新卒採用。そのため、富山企業の採用数UPのため、採用PR費用を補助(PR費用は、富山県内学生対象ではなく、あくまで県外にいる学生を対象とするように、リクナビなど広く知られている媒体で使うこととする)(Uターンサイトは、すでにUターンを検討している人しかみないため、対象が限られる)特に、女性の働きやすさを写真つきでアピールする企業を優遇する	(新卒入社時にどれだけ富山に戻せるかが勝負、県外で結婚してしまうと、帰ってこない)
45 ドラマ(ものづくり)の制作放映	・地方が舞台のドラマは、一様に都落ちした主人公が地方で花開く=地方は負け組の溜まり場のようなイメージ操作を受ける ・東京にはないヒト・技術がキラリと光る中堅中小企業がある	・地方こそが晴れの舞台であるドラマを製作し、全国・世界に発信	・若い人が働きたい県NO.1を目指し、産業観光と相まって、交流人口増にも資する
46 子育て支援策の充実 子育てのしやすい県、富山	・人口減少を防ぐため、若い女性にいかに富山県に戻ってくるかが課題	・子育てのしやすい県、富山をつくりあげ、将来子育てを考えている女性、子育てをしたいという家族に富山県にきてもらう(具体的には、「出産費用や産後健診などの費用の補助」「ママキット(出産、産後必要グッズ)プレゼント」「保育園・幼稚園の拡充、保育料免除」「子供世代の医療費補助」など)他都道府県と比較してもトップクラスの補助※を行う	(※富山ならではの「小中学生の学力の高さ(充実した学習環境)」「自然豊か、水がきれい、ごはんがおいしい」「安心安全な街」というキーワードを添え、出産→子育て→初等教育・高等教育まで、恵まれた環境であることをアピールし富山出身者の出戻り、他県からの流入につなげる)

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
47 子育てにお金がかからない環境づくりと働く魅力のある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 全国で少子高齢化が大きな問題 富山県は、全国的に見て教育県であり自然環境も良く、子育てに恵まれた環境が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> (現在の恵まれた子育て環境に加えて) 子育てにお金がかからない環境づくりと働く魅力のある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の若い夫婦世代から子育てしたい街として認識される
48 産業観光・伝統文化・自然環境・豊かな食を組み込んだパッケージツアー	<ul style="list-style-type: none"> 産業の維持・活性化には国内外からの流入労働人口の増加が望まれ、国内外の幅広い世代層を対象に心の豊かさと仕事のやりがいと両立できる労働環境が富山にあることをアピール 	<ul style="list-style-type: none"> 産業観光(ものづくり現場、農林水産業の見学・体験)と伝統文化、美しい自然環境、豊かな食を組み込んだパッケージツアーを展開し、体感してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 20年、30年にわたり継続して「働きたくなる県・暮らしたくなる県」を目指す
49 ライフスタイルを絞り込んだ体験移住	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、特に若者の流出が問題 富山の良さを知ってもらうために体験移住 	<ul style="list-style-type: none"> 2つのライフスタイル※に絞り込んだ体験移住による定住化の推進(※①富山市のまちなか・コンパクトシティでの公共交通と生活サービス機能が充実した便利さと豊かな食・自然が楽しめる日常②田舎暮らし志向の若者向けに里山での地産地消生活の体験。この両方が体験できるのが富山県の強み) 	<ul style="list-style-type: none"> (富山県が定住先として選択され続けることにより) 富山県が20年後、30年後も存続し続けている
50 車がなくても移動可能なまちづくり(車を運転しない人が移住可)	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車を持たない方は、公共交通の不便は居住環境の不便と捉える(車を運転しない人が定住しない) 車に頼らざるを得ない高齢者の運転が危険 	<ul style="list-style-type: none"> 交通面で車を持っていなくても移動可能なまちづくりの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車免許や自家用車を持たない移住希望者の定住が進む 高齢者による自動車事故が減少
51 ICTを活用した雪を克服する技術を推進・支援	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋側からは、冬の北陸地方は暗く、生活が大変そうなイメージとして捉えられている 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通等の技術開発の支援、除雪作業の効率化など、ICTを活用した雪を克服する技術の推進・支援 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の暗いイメージを払拭し、県内に定着するとともに、外から人を呼び込むことにつながる
97 クリエーター、芸術関係者育成塾の創設	<ul style="list-style-type: none"> 昨年、エンジン01文化戦略会議が大成功 その際の知の交流を続けるためにエンジン02も開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> クリエイター、芸術関係者育成塾の創設(さまざまなクリエイターや映画・映像関係、芸術関係の方が富山に訪れた縁を今後も生かし、クリエイターや芸術関係に就職希望の若者を地元富山で育てられないか) 	<ul style="list-style-type: none"> 地元でそれらのことを学ぶ機会があれば、若者の首都圏への流出を止める方法の一つとなる そのような人材が地元で育てば新しい産業も生まれる

(6) 観光振興・魅力発信、まちづくり

(人口減少、交流人口、訪日外国人の増)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
52 富山湾と立山連峰を生かした観光県	<ul style="list-style-type: none"> 富山湾と立山連峰を生かした観光県の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 富山湾にしかない、珍しい生物が見れるような水族館や美味しい寿司が食べられるテーマパーク 富山ならではの自然と水を生かした世界中から遊びに来るスパ・ホテル・遊園地を含めたリゾート計画 	<ul style="list-style-type: none"> (国内をはじめ世界中から観光客が訪れ、滞在し、満足度も高い)
53 路面電車を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 県外観光客が路面電車の写真を撮っている光景がよく見られ、路面電車自体が観光スポットになっている 一方、目的地(駐車場)に集客力のある観光地がない 	<ul style="list-style-type: none"> 路面電車を活かしたまちづくりとして、例えば、ライトレールを富岩環水公園に引き込む、あるいは、万葉線の終着駅を海王丸パークに引き込むなど、主要観光地をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> 観光魅力度がアップし、県外からの観光客を呼び込める
54 ヘルス&エコツーリズムでインバウンド集客	<ul style="list-style-type: none"> 富山は観光産業比率が低く、特にインバウンド対応の強化が必要 富山は海河山が50Kmで近接しており、かつ水資源の循環ができていく稀有な特徴を持った地域 	<ul style="list-style-type: none"> 世界的な「ヘルスツーリズム」「エコツーリズム」の基盤を開発し、アドベンチャーレースやトライアスロンなどのスポーツイベント、ライブフェスや演劇フェスなどの文化振興イベントも組み込む 併せて超富裕層向けのツーリズムの開発も行い、意識高い外国人を呼び込む 	<ul style="list-style-type: none"> 健康やエコに意識の高い外国人が行きたいエリア、日本一を目指す
55 農山漁村体験と民泊の活用による交流人口の増加	<ul style="list-style-type: none"> 他県(例えば長野県など)では、自然の中での野外活動や農山漁村体験により、修学旅行生の受け入れなどが盛ん 県内でも安全面への配慮から学校行事などでの野外活動が縮小傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 山へも海へも1時間程度で行き来できる特性を活かし2~3日間の日程で山と海、県全体を巡る体験が可能な修学旅行(林間学校)プランを作り県外へ売り込む(「野外体験・アウトドア」の拠点を整備、小中学生が安全・安心に活動できる体制を整え、その際に農家や一般家庭などへ「民泊(ホームステイ)」する(条件整備必要)) 	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口の増加とともに、20年、30年後の富山県を担う世代の「ふるさと富山」に対する愛着の基礎をつくる(県外修学旅行生は富山を第2の故郷、県内学生はふるさとの自然の豊かさを体験)
56 近隣県とタイアップした強力なPR体制を構築	<ul style="list-style-type: none"> 世界に誇れる立山連峰、富山湾などの豊かな自然環境や、北陸新幹線や富山空港などの交通インフラも充実しているが、国内外に向けてその魅力を伝えきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県だけのPRでは規模が限られるため、重要な資源は他の地域とタイアップした強力なPR体制を構築(立山連峰なら長野県、富山湾なら石川県(能登)、富山空港なら岐阜県(飛騨)など) 	<ul style="list-style-type: none"> (国内外から観光客や移住者が増えている)
57 富山=宇宙と繋げてPR	<ul style="list-style-type: none"> 富山県は食も産業も自然もあり良いが、揃い過ぎていて、全部PRしているが、それでは掴みがわからず、特色のある県とはいえなくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙航空の部品を作る会社があるならば、富山=宇宙と繋げてしまい、徹底的にPR投資しイメージをつける(宇宙関連のイベントや展示会の誘致、伝統産業や食、自然と宇宙が繋がるところを模索し商品開発。繋がった所もPR。技術者が定住環境づくり、子どもが想像力を育てるような環境づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙は無限、富山の未来も無限に広がる

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
58 台湾や韓国を焦点に当てた観光誘客	・富山県は、国際観光を推進しているが、更に促進していく必要がある。現在、注目されているのはリピート率が高いアジア圏であり、特に香港、台湾、韓国、シンガポール	・交通の便が比較的整っている台湾や韓国を焦点に当てた施策(富山の魅力を伝える動画等の制作、国別のマーケティングをしたうえで、その国の好みにマッチするような取り組み、海外の旅行代理店にコネクションを作る等)を展開	・台湾や韓国からは、「日本といえば富山」と思ってもらえるほどの存在を目指す
59 地元と一体となった海外観光客対応の体制構築	・海外からの観光客増加を想定し、旅行者が不安なく富山県を楽しんでもらうような対応・施設が必要 ・今後、「ハラル」対応も必要	・海外からの観光客を焦点に当てた設備・対応、周辺地域に協力・理解していただき、地元と一体になって海外観光客対応の体制を構築	・海外から富山県が注目されるような存在を目指す
60 「空き家」の宿泊施設等への活用 外国人観光客の受入れ環境	・人口減少の中、活力ある富山県を維持していくためには外国人観光客のさらなる増加を図り、いかに富山に長く滞在・周遊してもらい、お金を落としてもらうかが重要	・多言語対応、二次交通の利便性向上、カード決済の普及等のほか、今後増える「空き家」の宿泊施設等への活用を図るなど、ハードソフト両面での受け入れ環境を整備	・多くの外国人観光客が、富山県内の各地にあふれている富山を目指す
61 外資系ホテルの誘致	・県内にはスイートルームの数が限られている ・G7環境大臣会合を契機に、さらに国際会議・学会などMICEを誘致していく必要がある	・VIP宿泊となるスイートルームの供給を増やすため、外資系ホテルの重点的な誘致	・県内で国際色豊かなイベントが開催されるような国際都市を目指す。都市ブランドやホテル間競争によるサービスの質の向上にもつながる
62 県版コンパクトシティ	・富山市ではコンパクトシティ構想に基づく次世代の都市計画が進められ、世界からも注目を集めている	・富山市のコンセプトを県全体に広め、各市町村で適用可能な形でコンパクトシティを推進	・富山県全体が次世代地方都市モデルの「富山ブランド」として国内外にPRできる
63 マイカーを使わなくても生活できるエコな街づくり	・富山市中心部は食材・日用品等の小売店や映画館等の娯楽施設が少なく、日常生活に不便を感じている人(高齢者、車の運転をしない人など)が多いという現状 ・女性の就業率が高いにもかかわらず、店舗・施設の閉店時間も比較的早い	・富山駅は電車や市電、バスでアクセスしやすい場所であるので、駅周辺の開発と整備、駅を中心とした交通網の整備を進める	・マイカーを使わなくても生活できるエコな街づくりを目指す
64 快適で魅力的なまちづくりの急ピッチな整備	・働き口があっても魅力的な仕事やまちの魅力が低いと若者は定住しない(富山の若者が者が富山でお洒落に過ごせる場所は「環水公園のコーヒー店だけだ」としばしば耳にする)	・デペロッパーなどと連携し魅力ある商業・娯楽施設の創出に努める(県・各市町村の公共施設移転跡地や廃校をPPP・PFIなどで活用することにより地域色があり魅力あるまちづくりが可能)	(・魅力あるまちづくりが進み、若者が定着)
65 空き家(古民家)の活用による新たなムラの形成	・空き家が増加、射水市内川地区などの歴史的な景観の中や、散居村の屋敷林に囲まれた大きな住宅でも空き家が増加 ・一方で、「古民家レストラン」「古民家カフェ」などは、その佇まいや雰囲気が人気、遠方(県外)からも人が来る	・本県の住宅の居住面積の広さを活かし、空き家をレストランやカフェ、またはシェアオフィスなどにリノベーションし、集落(地域)を居住地区も含む「ムラ」のようにできないか	・既存資源である空き家を活用し、統一的なムードのある「ムラ」を新たに形成することで、観光客や移住者を増加させ、若い世代が活躍できる地域づくりが進む
98 交流人口の拡大 インバウンドや首都圏でなく地方間交流の拡大	・新幹線開業により、首都圏だけでなく今まで6時間以上かかっていた東北地方も東北新幹線からの乗り換えで所要時間が短縮	・首都圏でのPRだけでなく、東北地方でのPRを行う ・九州、四国といった飛行機での来県がメインになる地方でのPRを増やす方を検討(富山空港の搭乗率維持のため)(東北、九州、四国にも富山の食や風土、伝統工芸のPRの幅を広げる。PRの場だけでなく、それらの地域の人を対象としたモニターツアーの実施も必要)	・交流人口の増加や博多便など富山空港の新路線開拓にも繋がる
99 富山の食をさらにPR すしフェス開催	・富山は食べ物がおいしいと言われているが、いろいろな組合の都合などで一丸となつてのPRができていない	・その垣根を取り払い、例えば鮭のフェスなどを開催(鮭だけでなく、ますずしにも参加してもらい、日本酒と合わせれば魅力的なイベントにならないか)	・肉フェスが盛り上がっているように、全国初の鮭フェスを開催すれば話題になる

2 文化・人づくり

(1) 文化振興(芸術文化、伝統文化、伝統工芸など)

(伝統文化・伝統産業の継承、心の豊かさ、グローバル化)

項目名(キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
66 世界の子どもや文化留学生が集う芸術文化拠点の形成	・グローバル化が進展する中、富山に誇りや愛着を持ち世界で活躍できる人材が必要	・特色ある国際文化行事などを活用して、世界の子どもや文化留学生が集う芸術文化拠点の形成に取り組むとともに ・学校での国際文化交流の充実やふるさとをPRできる知識と英語力が持てる教育の実施	・富山県ゆかりの者が様々な国際交流の中心を担い、世界での富山の存在感を一層高めることを目指す
67 「伝統工芸の技と知のセンター」立ち上げ	・伝統産業分野におけるプレゼンスを高める必要あり ・住む人を呼び込む施策と住む人を留める施策を連動させる	・「伝統工芸の技と知のセンター」を立ち上げ、富山県の文化力を世界へ発信する拠点をハード・ソフト両面から官民一体で整備、併せて、空き家を県外移住者や外国人留学生に活用、地域に溶け込んでもらい富山の歴史や文化のアンバサダーになってもらう	・富山が伝統文化・工芸の聖地・メッカとなり、世界から職人や研究者が集まる ・富山県の文化力が世界に発信されている
68 本県の文化力をパッケージ化した海外での売り込み戦略		・伝統的工芸品を売り込むため、富山県の食文化とコラボレーションした海外販路開拓。富山の優れた「waza」を一堂に集約し、併せて富山の自然や生活様式など、本県の文化力をパッケージ化した海外での売り込み戦略を検討	・富山の文化コンテンツ市場を、20年、30年後、本県GDPの1%規模まで引き上げることを目指す
69 食と伝統工芸、伝統芸能をセットで売り込み、様々な国のライフスタイルに対応した伝統工芸新商品の開発を促進	・伝統的工芸品や伝統芸能は、生産額の減少や後継者不足などの課題 ・富山県には豊富な美味しい食材がある	・富山の食、富山の伝統的工芸品の食器、富山の伝統芸能披露をセットにして売り込むなど新たな需要の掘り起こしを行う ・伝統的工芸品では様々な国のライフスタイルに対応した新商品の開発を促進	・伝統芸能では意欲のある県外在住者も担い手として活動に参加するなど、20年、30年後には、伝統的工芸品と伝統芸能が富山の文化コンテンツの一角を担う存在となることを目指す
70 富山県を観光する意味づくり、県内に在住する女性へ文化施設のアピール	・現状では富山県に観光に来た人が県内の新幹線駅に降り立った時、一瞬がっかりするように思う ・ロコミ(SNSなど)でその良さを広めてもらえるような、街づくり、観光地づくりの仕掛け、デザインが必須	・富山市を県の文化的ハブ化(富山駅に降り立てば、県の文化をしっかりと総覧できるようにし、そこから高岡・氷見・八尾・立山など特色ある地域へ丁寧に繋ぐ) ・市内には、新近代美術館・ガラス美術館・高志の国文学館・県民会館・水墨美術館・科学博物館・プラザリウム・富山城跡・環水公園等があるが、簡単に周遊できるように公共交通・駐車場を整える。その中でも特に新近代美術館は最新型活動内容をしかける美術館として機能し、ミュージアムショップの充実など鑑賞者に受ける要素を増やすことが必須 ・文化施設(博物館、美術館、水族館、植物園、動物園など)の利用促進(学生(小・中・高・大)入場料金無料化など) ・県内に在住する女性へ文化施設のアピールを強める(博物館・美術館の開館時間延長(仕事の後、寄れるように)、周辺にレストラン・カフェ等の魅力的な飲食施設の誘致、女性視点・母親視点の催事を増やす)	(新近代美術館には、開館前にこそ継続的なメディア、Web、SNS等でのアピールをお願いしたい。現状では、箱が新しくなるだけと思われてしまい、県民が抱く新美術館への期待値が高まりにくいように思う。)
71 文化施設と商店街との連携強化	・若者の「街中に娯楽がない」「シャッター街になっている」との意見あり ・富山県は文化施設が多い	・文化施設の多さなどを活かし、商店街でのアウトリーチや商店街のギャラリー化、文化施設のイベントでの出張販売など文化施設と商店街との連携強化に取り組むとともに ・練習や創作活動での空き店舗の活用など商店街による文化の創造への支援	・質の高い文化が娯楽として街に溢れ、文化が街の賑わいを創出していることを目指す
72 「文化消滅可能性都市」にならないための整備	・少子高齢化の中、その土地の文化に関する技術や記憶を持つ高齢者がいる点で追い風が少し吹いている分野が伝統文化。ただし安心して30年後存続できているか分からない ・富山県内の伝統文化は工芸と芸能にある。そして各地の祭りはその大小問わず、工芸と芸能のハイブリッド	・各地の祭りの整備を強める。特に「風の盆」「立山信仰」「御車山」について、景観の整備・保存、利便性の増強、周辺地域の教育機関と協力し、伝統文化の継承に関するモデルケースとなるレベルのものをつくりあげる。	(・富山県内の伝統文化、祭りが受け継がれている)
73 伝統芸能版B-1グランプリ	・おわら、むぎや、こきりこなど、富山の優れた伝統芸能を知ってもらうと同時に様々な伝統芸能にふれる機会	・全国各地の伝統芸能を集めた「B-1グランプリ」のような大会の企画(国内外を問わず観光客が集まり、伝統芸能に加え食や伝統産業・工芸品や豊かな自然などの魅力を知ってもらう)	・富山への移住に結びき、富山県民自身もふるさとの良さを再認識でき、郷土愛が深まることで若者の定住化、Uターン増加にもつながる
74 ガラスへの継続的支援	(・富山市ではガラスのまちづくりを推進)	・富山県をガラスの聖地化とするため、ガラス作家はもちろん、ガラス工芸専門のキュレーター育成と輩出が必須(若手作家への経済的支援、ガラス美術館、富山県主催のガラス国際コンペティション開催)	・ガラス美術館、ガラス工房を軸に、徹底的に富山県がガラスの聖地化
100 実は美術王国富山の発信	・公設で現在新築中の県立近代美術館、富山市ガラス美術館、水墨美術館、私設で楽翠亭美術館、ギャラリーミレー、6月にオープン森記念秋水美術館と様々な美術館がある ・県外、国外にまだまだPRしきれていない	・県、市、民間の垣根を越えて、まとめてPR(直島とまではいかないが、これほど美術品がある地方都市は珍しい)	・中心部のあらたな観光資源としてPRできれば、短期滞在の方だけでなく、それを目当てに訪れる観光客も増える

(2) ふるさと教育

(若者定着、ふるさとへの貢献)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
75 ふるさとの良さを認識、外へ発信する体験	<ul style="list-style-type: none"> 富山県人は、富山の良さを発信するのが下手。良さを認識していない人が多いと言われている 富山県にはいろんな良さがある 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生高学年で富山県や市町村のことを調べて、良いところを認識してもらい、「ふるさと富山自慢大会」など各学校やクラスで発表する機会を設ける(県大会まで開催、ふるさとの良さを認識、外へ発信する体験をしてもらう) 	<ul style="list-style-type: none"> 20年、30年後、県内に定着するとともに、外から人を呼び込むことにつながる
76 富山の偉人や文化を幼少から教育、成人になっても改めて周知	<ul style="list-style-type: none"> 諸外国との領土問題 富山県の人口減少問題 	<ul style="list-style-type: none"> 富山の偉人や文化を幼少の頃から教育できる仕組みづくり 成人になっても改めて歴史や文化を周知できるような資格や褒章制度の創設 	<ul style="list-style-type: none"> 「富山県人」として、さらには「日本人」としての歴史と誇りを再認識
77 ドラマ(富山の偉人)の制作放映	<ul style="list-style-type: none"> 若者のUターンなど人口増には幼少期からふるさとに愛着を持つ必要 富山には高峰譲吉、安田善次郎、浅野総一郎など多くの偉人 	<ul style="list-style-type: none"> 富山ゆかりの偉人を主人公としたドラマを製作(アニメ制作会社P.A. WORKSがあることから、アニメ映画の製作も有効) 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土愛が醸成されている
78 ふるさと教育を学校教育の中で取り組み親子等世代間で共有	<ul style="list-style-type: none"> 富山で育った人材の県外流出を食い止める 美しい自然環境と豊かな食文化、地域に根付いた伝統文化と先進技術産業など生活資源が豊富であることを、将来を担う子供世代が愛郷心として醸成することが望まれる 	<ul style="list-style-type: none"> (ふるさと教育を)学校教育のなかで、例えば夏休みの自由研究課題、学習発表会等のテーマとして取り組み、親子等世代間で共有(自ら学んだ事は深く心に刻まれる) 	<ul style="list-style-type: none"> (愛郷心のある)20年、30年後の将来像を描ける人材を育む
79 先人が語った言葉(著書、関連書)や映像等に触れる機会	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと教育に熱心に取り組んでいるが、諸分野にわたり国内外で活躍している本県出身者について十分には知られていないという印象 自分と同じ風土で育ち、それぞれの分野で名を遺した先人の生き方を知ることは将来を考える若い世代にとり参考となる 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県教育記念館や高志の国文学館などを活用し、文学者を含む先人が語った言葉(著書、関連書)や映像等に積極的にふれる機会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 本県の特徴を知りつつ県外・国外で活躍できる人材の育成を目指す
80 富山で活躍した先人の発掘(江戸時代以前)	<ul style="list-style-type: none"> 県史を学ぶうえで偉人の物語は欠かせないが、江戸時代以前の知名度のある先人は、文人「大伴家持」のみ(江戸時代以降は加賀藩がベースとなり否が応にも石川県(金沢)を意識せざるを得ない(加賀本家からの分家独立のイメージ)) 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代以前にも新田開発や交易など県土づくりに貢献した人は多くいるはず、富山あるいは北陸、環日本海という大きなスケールで活躍した先人(集団)を発掘し、県民に愛され、尊敬されるスターに育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県民としての誇り、自信を育むことにつながる

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

(3) 人づくり (教育全般)

(これからの時代に対応する人づくり、若者定着)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
81 「グローバル&ローカル」を特徴とした富山県型カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少のなか世界をリードするような富山県を実現するには、グローバル人材の育成(教育)が非常に重要 一方で小さい頃から富山に愛着・誇りを持つ「ふるさと教育」の推進も重要 	<ul style="list-style-type: none"> 「グローバル&ローカル」を特徴とした富山県型カリキュラムを作り、全県的に小学校から「英語」及び「ふるさと教育」に取り組む。裾野の拡大と同時にグローバル人材育成のためのハイレベルな教育に取り組む大学または企業用の研修機関を整備し全国から人材を集める 	<ul style="list-style-type: none"> 富山がグローバル人材の育成拠点となり、世界の窓口となる富山を目指す
82 人財のベストマッチングのため、教育機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 10代から30代の若い世代が県外へ転出超過傾向 一方、企業の若い担い手や人材不足は深刻、産業構造の変化からますます人手不足が予想される業種も存在 	<ul style="list-style-type: none"> 企業が求める労働力、加えて今後どの分野にどんな労働力が必要なのか把握に努め、中等・高等教育機関との連携を高め、学ぶ内容や学校・学部学科の在り方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 各卒業生の県内企業への就職率を高め、「人財のベストマッチング」を行えば県外流出に一定の効果が期待できる
83 理系学生の教育 (特に女性)	<ul style="list-style-type: none"> 製造業が多く、就職先としても文系学生よりも理系学生の方が間口が広い。(特に女性は文系志向が多いため、就職先としても製造業はそれほど多くないだろう) 富山県への定着には早期から理系の教育が欠かせない 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県内の製造業と協力し、特別講義を小学校から定期的に行うことで、小さい頃からものづくりに興味を持ってもらうような取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的に見れば地元企業の活性化、富山県の活性化が図られ、独自の富山県の取組みとしても全国から注目を集める
84 教育の再構築 (中高教員について博士号取得者の積極的採用、富山市科学博物館の増強)	<ul style="list-style-type: none"> 未就学児から高校生まで発見・発明・創造など本当の知的活動につながる好奇心を刺激する教育が今後の人材育成には必要 教育に強みがある県とはいいいながら博物館に代表される教育的施設の内容とアピールは不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 中高教員について博士号取得者の積極的採用(学ぶこと・考えることの素晴らしさ・面白さを伝える教育の実践、理系・文系教科ともに勉強から研究につながる好奇心・探求心の開発) 富山市科学博物館の増強(ノーベル街道との連携、県内の博物館との連携、学芸員の増、多彩な教育プログラム開催) 	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストの成績を踏まえつつも、それに依存しすぎない、教育に関して理念のある、最先端の試みを行う県としたい
85 文化施設と学校が共同で学習プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 美術館、博物館、文学館は、教育現場で活用できるコンテンツを多く有する場であるが、現状では十分に活用されているとはいえない 	<ul style="list-style-type: none"> (周辺地域にある各種学校(小学校～大学)の学習、活動の場として積極的に活用されるよう)館と学校がお互いの意見・要望をすりあわせながら共同で学習プログラムを組んだり、教育普及活動を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 館が若い世代が活動する場として活用されることを目指す(ただし、このための人手が必要になる)
86 本県ならではのキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が将来を考えるにあたり、さまざまな職業について知り、実際に働いている人の話を聞くことが大事 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に事前調査し、将来なりたい職業として名前の挙がったいくつかの職種について、県内で活躍中の人々を招き、それぞれブースを設け、生徒が自分の興味ある仕事についての具体的な話を聞いたり、簡単な仕事体験ができる機会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 本県ならではのキャリア教育の推進を目指す
87 県立大学に医薬系・文化系の学部を充実	<ul style="list-style-type: none"> 富山県に魅力のある大学が少ないことが、若者の県外流出の要因のひとつ 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県立大学に医薬系・文化系の学部を充実(総合大学として研究の分野で多くの功績を残す) 	<ul style="list-style-type: none"> 富山の若者にとっても魅力がある大学となり、全国から人が集まる大学となれば、地元の活性化につながる
88 富山県の教育に再注目	<ul style="list-style-type: none"> 富山県は教育という面ではトップクラス(学力テスト、インターンシップ、14歳の挑戦等)だが、全国的にはそれほど伝わっていない 「教育の富山」と捉えてもらえるようPRすることが大切 	<ul style="list-style-type: none"> 「教育の富山」と捉えてもらえるようPRする、例えば、インターンシップを通して学びの体験談を発表する場なども設け、県内だけでなく、県外にもアピール 	<ul style="list-style-type: none"> 「富山型教育」を確立していく

青年部会委員及び県庁タスクフォースからの提案を事務局で抜粋、追記等整理したもの(キーフレーズは事務局で抜粋)

(4) ライフスタイルの転換

(人口減少)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
89 富山型シェアリングエコノミーの推進	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少により「空き家」「空き地」「シャッター商店街」が増加、高齢化で自家用車での移動が困難になる人も増加 新しいハコの開発より、今あるものをどう再活用するかを考えることが重要。すでに富山には大きく立派な持ち家あり 自家用車も1人1台から乗り合いの考え方への移行が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 「住まう」「移動する」「泊まる」「文化活動を楽しむ」などの主要テーマで、「所有から共有へ」のシェアリングが推進される活動を推奨(現行の法律でグレーゾーンとなる部分を特例で一部解消することで推進、シェアがシェアリングエコノミーに参加しやすいよう月1GBまで使い放題のスマートフォンを無償提供する等工夫も) 	<ul style="list-style-type: none"> ないものねだりではなくあること探しを推進し、「富山型シェアリングエコノミー」をつくる
90 「のんびりやろう富山県 キャンペーン」	<ul style="list-style-type: none"> 富山県民の生真面目な気質から、女性は、結婚、子育て、仕事や介護を「全部きちんとやらなければならない」と考え、息苦しさを感じるような現状 県外からきた人から見れば「住みにくい県」「堅苦しい県民性」と感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 生真面目な気質を少しでも緩和すべく、社会全体で「もっとのんびりやっていたいんだよ」「完璧にしなくていいんだよ」というメッセージを発する県民運動を展開(企業は人口減少による労働力不足を補うための生産性の向上をICT、IoTなど新技術で対応することを目指し、人的消費の少ない形で新たな産業構造を構築) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本全体が「総活躍」と言っている中で、1県くらい「のんびりやろう」という情報発信をすることは、県のイメージの向上につながる
91 空き家の活用と県外学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 富山市内や高岡市内においても、街中で空き家が増加 若い世代が郊外で家建てて転居し、市街地には1人暮らし高齢者が多くなるという現状 県内大学入学生の約半数は県外出身者 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の空き家を活用して、これらの若者が県内で暮らす「富山県(内)学生寮」を設ける(シェアハウスとして1物件に3~4人で共同生活することで家賃を安くし、あわせて学生等に地域活動への参加を義務づける) 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が地域と密接につながり、富山県への愛着が沸き、県内就職や定着化を図れる。一方、地域では、学生が地域活動に参加することで、地域の賑わいが創出

3 グローバル化(1、2に含んだものを除く)

(グローバル化)

項目名 (キーフレーズ)	現状・課題	将来の姿に向かって採るべき具体的行動	目指すべき将来像
92 留学制度推進、幼稚園から英語教育、小・中・高の外国人英語教師の必置	<ul style="list-style-type: none"> 新しい発想を生み出せる環境づくりが、将来の富山を救う 若いうちから外国との交流を広げる、県外や外国に行くことで富山の良さを一層再確認でき、グローバルな視点で物事を見ることが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 留学制度の推進及び幼稚園からの英語教育、小・中・高校への外国人英語教師の必置(教わるだけの教育ではなく、産み出す力を養う教育を行う) 	<ul style="list-style-type: none"> (新しい発想が次々に生み出され、また)「富山の人はネイティブな英語が話せる」という県を目指す
93 就職後にも英語教育に触れられる富山県独自の教育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 約6割の高校生が富山にずっと住みたい、また、一度富山を出てもいつかは富山に戻りたいと回答 グローバル化の一層の進展により国際社会での富山の存在感を維持していくことが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> こうした未来を担う子どもたちのために、就職後にも英語教育に触れられる富山県独自の教育プログラムを開発 文化発信によるインバウンドツーリズムの拡大にも取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 県民の5割程度が英語で日常会話ができることを目指す
94 学生・社員が、より英語に親しめる仕組み	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド、アウトバウンドを含め、今後海外とのコミュニケーションはますます当たり前化していく 	<ul style="list-style-type: none"> 県内の学生・社員が、より英語に親しめる仕組みづくり(例えば、TOEICスコアに応じた褒賞金の制定(+100点毎に10千円等)、海外留学の活性化(派遣先の獲得/奨学金の無償化等)、富山県人用の英語アプリの開発(主に富山県の魅力を英語で伝えられるようになるコンテンツ)等で英語の自己啓発をバックアップする仕組みなど。 	
95 若手向けの「青年経済訪問団」	<ul style="list-style-type: none"> 県内の若手文化人や経済人が、積極的に外国の若手文化人や経済人と触れ合えるような機会が必要 若手は先輩方と比べればはるかに人脈も経験も少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 若手向けの「青年経済訪問団」を派遣 知事や年配の文化・経済人も同行し、次世代へのバトンタッチにもつながる仕組みを取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代の交流が活発(交流が継続) 人生の先輩の立ち居振る舞いなどをしっかり学んだ若手が成長し、長い目で発展につながる
96 日本海側の国際都市	<ul style="list-style-type: none"> 日本での法人登記は容易 	<ul style="list-style-type: none"> 英語、中国語教育の義務化 海外から日本に進出したい中小企業や個人事業主の受け入れを促進し、富山の企業家とジョイントする(海外の能力ある方が富山に来る理由を観光以外でつくる) 国際結婚なども促進 	<ul style="list-style-type: none"> 日本海側の国際都市を目指す

4 その他意見として

- (ビジョン策定にあたり)各市町村の役割を明確にする
- 焦点を絞った方が議論しやすい
- 議論のモチベーションを上げるため、提案を事業化(予算化)してはどうか